

日本を背負って立つ若い人の育成を

あけましておめでとうございます。今年は国立大に既に16名合格、と聞きました。就職等もあるでしょうし、ほかに活躍する人もいます。義務教育である中学は基礎学力を身に付けてもらう時、高校は進むべき道を模索する時期です。力いっぱいやっていくと、生徒のどこかに能力が現れてくる。その能力を見つけ、引き出してやるのが先生方の力だと思う。各人の能力には差があるが、本当の能力が一つだけ必ずある。それを伸ばしていただくのが高校かなと思う。進学分野、スポーツ分野、ほかの分野といういろいろな取り組みがなされている。インターハイの出場を見ても、いろいろな方面に選手を送っている。できるだけことはやってみるのがいい。いよいよ締めくくりの3学期です。生徒を送り出し、迎え入れる準備で忙しいと思いますが、しっかりお願いしたいと思います。

昨年北側の土地が少し取得でき、グラウンド、体育施設、春には間に合うよう整備しています。若水キャンパスは狭い。なかなか都会では土地の取得は難しい。そんな中で少しずつでも学校整備を心がけていく所存であります。十分ではないが少しずつ整って来ると思います。足りない所も知恵を絞って十分に活用していた

後藤理事長の年頭挨拶要旨

中学・高校

だきたい。

正月の経営者の集まりで、今年の目標を人材育成と書いた人が何人かいた。狭い日本で、資源も少ない日本で、昔は工業立国として成り立ってきたが、今はそれだけでは生きていくのが難しい。ものだけでなく扱う人が大事になってくる。売れるものを作って勝負していかなければいけない。負けない日本を背負って立つ若い人を育成していかなければならない。

若水へ来ると若い人の姿をたくさん見かけます。へこたれないように。子どもたちも先生方の背中を見て追っかけてくる。お正月の穏やかな天気のような日本が来ることを祈り、今年1年、先生方に期待をし、一緒に進んで行きたい。いいスタートを切りましょう。



若水キャンパス南校舎で
後藤理事長が年頭挨拶

これまでの取り組み 着実に前進を 後藤学長の年頭挨拶要旨

あけましておめでとうございます。穏やかな新年のスタートを切ることができました。今年も、これまでも取り組んでまいりました教育の充実、研究の活性化、環境整備、貢献をより一層進めていきたい。例えば数学や物理、英語などの基礎科目は専門科目との連携を考慮した改善を図ってほしい。また大学院生を増やしていくことによって研究の活性化にもつながる。学生の減少を具体的に食い止めてほしい。環境整備に関しては5号館跡では食堂建設が進んでいます。こうしたキャンパス整備はまだまだ計画を持っています。

しかし、なんといっても経営の安定化が大前提。文科省から定員超過率削減の話が出てきました。本学は毎年若干高めに設定してありますが、非常に影

響が大きい。29年度には定員増を図るべく準備を進めているが、それにしても入学者は減ってくるであろうと思います。ここ数年来2018年問題に対応してきましたが、それ以前の問題が現実になりました。

こういった問題に対しても、これまで取り組んできたことを着実に前進させていくことが大事です。教職員が一丸となって力を合わせていくことが何よりも大切。間もなく入試が始まり年度末の締め、新年度の準備と忙しくなる。特に今年はロボカップジャパンオープンが本学で開催され、多忙な年度末になってくると思いますが、皆様には元気に職務を果たしていただければと思います。今年も皆様方のご尽力ご協力お願いいたしまして挨拶とします。

人事異動

<新規採用> (平成28年1月1日付)

事務局総務部参事 (広報担当)

事務局総務部警備課主幹

<退職> (平成28年1月1日死亡)

事務局システム管理部参事

山本 啓二

廣田 憲治

山本 久雄

後藤鉦二賞の井研治副学長

学園の発展に顕著な業績

後藤鉦二賞を贈られた井研治副学長は学園の発展に

寄与した顕著な業績が認められました。井副学長は平成七年四月、当時の情報通信工学科教授として奉職、音響工学や信号処理を専門としています。附属図書館長、愛知工業大学情報電子専門学校校長、副学長など要職を歴任、管理運営の強化、教育研究の向上、環境

整備など大学の発展に大きく寄与しました。

授賞式で後藤理事長は井副学長の功績を振り返りながら「常に物静かに学長を支え、地道に指導力を発揮してこられた」とお祝いの言葉をかけました。井副学長は「身の引き締まる思いです。賞に恥じないよう、これからも建学の精神を胸に過ごしていきます」と謝辞を述べました。

後藤鉦二賞は学園の前理

後藤すゞ子先生奨学金 情報科学部学生に交付

学園は二月十六日、「後藤すゞ子先生奨学金」を情報科学部の学生に交付しました。奨学金は元学園長の後藤すゞ子先生の遺志に基づいて設けられ、親の死去、失職など思いがけない理由で学資の負担が難しくなった設置校の学生、生徒が学業を継続できるよう支援するものです。

交付は八草キャンパス本部棟で行われ、後藤理事長が奨学金の趣旨を説明して



後藤理事長（前列左から3人目）や井副学長（同4人目）を囲み記念撮影する関係の皆さん

事長で愛知工業大学の初代学長を務めた後藤鉦二先生の功績を記念し、「建学精神」の昂揚と人材育成に資する目的で設けられています。「教育」「科学技術の振興」「スポーツ」「学園の発展」に寄与した業績顕著な教職員の中から、推薦を得て記念会が受賞者を選定する荣誉ある表彰です。

受賞者には昭和四十九年度に卓球の世界チャンピオンになった故長谷川信彦さん、イチロー選手（オリックス時代）、プロ野球で活躍した山崎武司さんからスポーツ選手もいます。



後藤すゞ子先生奨学金を母親に手渡す後藤理事長

母親に手渡しました。後藤理事長は学生に「社会に出たらお母さんに親孝行してください」と励ましの言葉をかけました。

吹奏楽部が定期演奏会

学園が主催する名電高校吹奏楽部の定期演奏会は一月十日、名古屋国際会議場で昼と夜の二部にわたって開かれ、会場いっぱい聴衆を魅了しました。



吹奏楽部の51回目の定期演奏会

創立、一九六五年に第一回となる演奏会を開いて以来、定期演奏会は今回で五十一回目となりました。伊藤宏樹教諭の指揮で四部構成。一部では全日本吹奏楽コンクールの課題曲や、作曲家八木澤教司氏による「永劫の翼」ジョン・フレミングの法則」を演奏しました。「永劫の翼」はフレミングの法則で知られる英国の電気技術者フレミングの生涯がテーマの、本校にふさわしい吹奏楽部の委嘱作品。このほかステージドリルやポピュラー音楽な

ども披露されました。大学で薬品類の棚おろし

学園管理部管財課は一月七日から二月五日まで、大学の各研究室が保管する薬品類で事件や事故が起きないように、管理を徹底する棚おろし作業に取り組みました。平成二十一年度に応用化学科が導入した薬品管理システムが全学で運用されるようになったのを受けて、初めて学内すべての薬品室、研究室の薬品棚、危険物倉庫を対象に集中的に作業を進めました。



担当教員立ち会いの下、施錠された薬品庫からガラス瓶などに入った薬品類を取り出し、一つのバーコードを読み取りながら、薬品管理システムに登録されている内容と不一致がないかを慎重にチェックし、併せて管理上の要望などを聞き取りました。登録されている学内の薬品類は約五千八百点。応用化学、機械、電気、土木工学科などの薬品類を扱う研究室を対象にしています。

愛知工業大学、愛工大名電高校、愛工大附属中学校の各設置校では、一月下旬から二月上旬にかけて入学試験が本番を迎えました。

各設置校で入試本番

大学

大学入試の前期日程はA方式（記述式）が一月二十七、二十八日、M方式（マークセンス式）が同二十九日の三日連続で行われました。三学部七学科十四専攻の募集人員六四八人に対し、志願者数は六七二一人で、昨年を四二五人上回りました。

高校

例年、県内私立高校で有数のマンモス入試となっている名古屋の一般入試は、二月三日に若水キャンパスで行われ、岡山、福岡の十二地方会場で行われました。八草キャンパスでは早朝から受験生が訪れ、会場となった10号館、1号館の入り口で割り当てられた教室を確認して入室していきま

中学

附属中学の入学試験は一月二十三日に奨学生試験、二十四日に第一回試験の日程で行われました。合わせて一〇五人の定員に対し受験者は五八一人で、倍率は五・五倍でした。

使って行われました。最大の会場となった喬徳館（体育館）では四五〇人が受験。午前六時の気温が氷点下一度と冷え込んだ中、館内は八台の大型ストーブで暖められました。受験生たちは真剣な表情で監督の先生の説明に耳を傾けた後、国語、数学、英語、理科、社会の順で問題に取り組みました。

校門前で出迎えた進学塾の先生から励ましの声を掛けられました。

各教室で担当教諭の説明を聞いた後、午前八時三十分から国語、理科、社会、算数の四教科の筆記試験に臨みました。「合格」の鉢巻きを締め気合を入れる児童もいるなど、全員が真剣な顔で問題に取り組んでいました。

大学編入学15人激励

専門学校

専門学校から今春、大学に編入学を予定する学生たちが一月二十八日、校内で稲垣慎二校長の激励を受けました。編入学予定者は十五人お

り、このうち愛知工業大学に十四人。編入学先は工学部機械工学専攻、同機械創造工学専攻が各一人、同電子情報工学専攻が二人、情報科学部コンピュータシステム専攻が三人、同メディア



稲垣慎二校長（左端）から激励を受ける大学編入学予定の学生たち

ア情報専攻が一人、経営学部経営情報システム専攻が六人となっています。他大学へは中部大学に一人編入学します。

激励会では、稲垣校長が「専門学校で学んだ長所を生かし、足りない部分は補いながら自ら学ぶ姿勢を身に付けてほしい。一年から大学にいる学生と仲良くなつて正確な情報を手ずかることも大切。困ったときは、ここに相談しに戻ってきて」と、親身に話しかけていました。



緊張した雰囲気の中、問題の配布を受ける大学受験生



志願者が大幅に増え喬徳館では450人が受験した高校



必勝の鉢巻をした児童の姿も見られた中学入試

青色LEDを手に講演する
天野浩名古屋大学教授



イノベーションの重要性を強調

学園の後援組織・愛名会と中部産業連盟主催の講演会が昨年12月10日名古屋国際ホテルで開かれ、一昨年ノーベル物理学賞を贈られた名古屋大学の天野浩教授が「世界を照らすLED」と題して講演しました。受賞からちょうど1年。天野教授はこの1年間の経験を振り返りながら「今の日本にとってイノベーションはとても重要。イノベーションのための青色LEDの可能性をさらに考えていきたい」と語りました。

ノーベル賞・天野浩名大教授 愛名会で講演

天野教授の講演要旨

愛知工業大学には学生のころからお世話になっていまして、ドクターの学生時代には実験の助手を務めたこともありますし、最近では澤木先生の研究を少しお手伝いさせていただいております。授賞式からちょうど1年たちまして、この間いろいろな経験をさせていただきましたが、一番感じたのはイノベーションということです。なぜ日本にイノベーションが必要か、輸出に関するデータを見てもリーマンショック以後、唯一回復していないのは日本だけです。ですから新しい産業を興していけないといけません。

イノベーションを起こすために何が必要か。青色LEDに関してヒントがないか考えてみました。青色LEDのスタートは1959年で非常に長い時間かかっている。長くやるべきことは長くやらないとできない。1962年に赤色が実用化、1974年に緑が実用化され、「次は青だろう」と大方の研究者は考えました。ドイツの研究者が1959年に窒化ガリウムの可能性を論文にされ、翌年特許を取った。この発見を基に米国の学者が1971年に世界で初めて光らせました。この成功をきっかけに世界一流の会社が一齐に実用化を目指し1970年代にはブームとなりました。しかし、すべての試みが失敗に終わり、ほとんどの研究者が別の材料にシフトしました。ただ一人この材料を諦めなかったのが恩師の赤崎先生です。研究を続けるため1981年に松下から名古屋大学へ移りました。

私は1982年に研究室に加わりました。このテーマは魅力的でした。当時マイコンが急速な勢いで浸透、キーボードをたたいてプログラムができる時代が変わっていった。コンピュータの発展に貢献したいと思い、ディスプレイがフルカラーになれば世界を一変できると、勇んでこの研究に取り組みました。しかしビギナーである学生が簡単にできるほど生易しいテーマではない。自由な雰囲気の中、何度も失

敗を重ね議論をするうち澤木先生に教えて頂いたことを思い出し、少しだけリンを加えたのです。これが突破口となり、当時世界で一番きれいな結晶を1985年に作ることができました。さらに名古屋大学でできた技術に対して予算をつけて頂き、研究がものすごく加速し実用化につながっていきました。

大学でシーズを見つける、それだけでは社会に貢献できない。それを見出して企業と連携して開発を進めるため、つなぎ役をしてくださる官の方、産官学の連携が青色LEDに限らずイノベーションに重要になると思います。当時私が考えていたのはディスプレイだけですが、1996年日亜化学の技術者が黄色のフィルムを重ねるだけで簡単に白色になる原理を見つけました。一般商品にも使えるようになり、社会貢献が急速に進みました。



後藤理事長ら大勢の聴衆が熱心に聞き入った天野浩教授の講演会

エネルギー問題は日本にとって非常に深刻な問題。再生可能エネルギーもまだまだ。提案したいのはもっともっとシステムの効率をあげて質を上げ、しかもエネルギーの消費を減らそうということで、LED電球がその一つです。米国の試算によれば2030年までに全照明のうち4分の3がLEDとなり、省エネ効果は全発電量の7%、日本では電力料金で年間約1兆円の省エネ効果が試算されている。日本の大学はイノベーションの拠点になれるか。様々な課題がありますが、起業活動家の割合も少なくイノベーションが発生してもそれから後の仕組みがない。そこをなんとかできないかと名古屋大学を挙げて取り組んでいます。日本の全大学、企業が参加してのコンソーシアムを立ち上げて、イノベーションが生まれるような仕組みを作りたいと考えています。

就職活動本格スタート

説明会解禁 愛名会企業展 437 社出展



2日間にわたって延べ3255人の学生が詰めかけた愛名会の企業展。今季の就職活動の本格的スタートとなりました

学園の後援組織「愛名会」の会員企業が出展する大規模な学内企業展が三月一、二日、大学八草キャンパスの鉦徳館（体育館）で開かれ、来春卒業予定の学

生らの就職活動が本格的にスタートしました。愛名会は平成九年に学園創立八十五周年記念事業の一環として発足し、この企業展を大学と毎年共催し

ています。前年度は就職した学生千二百人のうち三百四十八人が愛名会企業二百十二社に入社を決めるなど、本学の高い就職率を支えています。各日午前、午後の四回に分かれ、計四百三十七社が出展。学生は二日間で延べ三千二百五十五人が参加しました。開会式で山田英介、井研治両副学長が挨拶し、入場時間になると、待ちかねた黒いスーツ姿の学生たちが次々と目的の企業ブースを埋めていきました。

名電高大接続事業「課題研究」を発表



中、参加した情報科学科三年の男子学生は「インターシップで得た情報も生かし、次は個別の説明会に向け準備を進めたい」と気を引き締めていました。

キャンパスで行われた課題研究発表会で大学の教員から高い評価を受けたもので、それぞれの研究テーマは「Arduino と iPhone/Apple Watch による家電製品の操作」「NOx を吸収する食物 NOx の自然分解」「汎用旋盤による技術習得」「別荘建築」「防災アプリの開発」「マルチカメラを用いたエンターテイメントにおける表現方法の研究」です。

今年も学生優位の売り手市場が続き、本学への求人企業は二日現在、七千五百三十八社と、昨年同日比二五%増えています。面接などの選考活動解禁（六月一日）までの期間が昨年より二カ月短い「短期集中型」となっている

名電高大接続事業として高校専門学科三年生がこの一年、テーマごとにグループに分かれて取り組んだ「課題研究」のうち、優秀と評価された六グループが一月十四日に高校鉦徳館でプレゼンテーションを披露しました。写真。昨年十二月、大学八草

全日本スキー・デュアルモーグル 四方選手が初優勝



優勝した四方選手

大学競技スキー部の四方元幾選手（経営学科四年）は第三十六回全日本スキー選手権大会（フリースタイル競技）（二月十三日～十四日、福島県猪苗代町）の男子デュアルモーグルで初優

勝しました。シングルでも三位でした。デュアルモーグルは並列する二つのコースを二選手が同時に滑り降り、一対一で勝ち抜けを争い、決勝まで対決を続けます。西裕之監督は「外国人選手に負けないパワーをつけるため、昨年夏から筋力

強化をメインとした体づくりに取り組んできたことが好成績につながっている」と話しています。一方、四方選手は世界各地のフリースタイルスキーW杯を転戦、アメリカ・ユタ州で二月六日に開催された第五戦のデュアルモーグ

ルで、参加日本人選手の中で最高位および自己最高の十位となるなど好成績を残しており、W杯世界ランキングは現在二十二位。世界で上位二十四人までしか出場できないW杯最終戦（ロシア・三月）の出場権を得ました。

（提供 モーグルワールド・丹保太郎）

名電卓球勢 全日本で好成績

2人優勝 学園表彰で称える

学園は二月二十五日、若水キャンパスで学園表彰を行い、全日本卓球選手権でそれぞれ優勝者を出した大学男子卓球部と高校卓球部の快挙を称えました。後藤淳理事長が男子ダブルス優勝の吉田雅己選手（大学経営学科三年）、ジュニア男子優勝の木造勇人選手（高校一年）と両部の指導者に表彰状を手渡しました。



後藤理事長から学園表彰を受ける吉田雅己選手

後藤理事長は「吉田選手は水谷選手と組んで頑張った。おめでとう。高校も木造君に続く選手がどんどんできてほしい。これからも指導者の皆さんと一層の精進を」と祝辞を述べました。クラブ活動後援会の辻

本昌孝副会長も「さらなる上を目指して頑張ってください」とお祝いの言葉を送りました。



後藤理事長から学園表彰を受ける木造勇人選手

大学の吉村真晴選手（経営学科四年）が男子シングルスで3位だったほか、多くの選手が好成績を残しました。

大会は一月十一〜十七日に東京体育館で開かれ、男子ダブルスで第一人者の水谷隼選手（Beacon LAB）と組んだ吉田選手が初優勝しました。ジュニア男子では木造選手が準々決勝で松山祐季選手（高校2年）と対戦する恵まれない組み合わせとなりましたが、勝ち上がった木造選手が優勝しました。

います。吉田選手は「水谷さんと組んだチャンスは何としても生かしたかった。積極的にコミュニケーションを取り合い、プレッシャーを力に変えることができたと思う」と笑顔で大会を振り返りました。

大学ラグビー部が初優勝 全国地区対校大会



全国地区対抗大学ラグビーフットボール大会で初優勝した大学ラグビー部

表彰を受けた皆さん。【大学男子卓球部】鬼頭明監督、大元司顧問、吉田雅己選手【高校卓球部】今枝一郎監督、増田朗顧問、真田浩二顧問、董崎岷アドバイザー（感謝状）、木造勇人選手

屋市パロマ瑞穂ラグビー場）に本学ラグビー部が東海・北陸代表として出場し、決勝で鹿児島大学（九州代表）を45対21で下して初優勝を飾りました。

選手権への出場権を獲得できなかった大学の「もう一つの大学ラグビー選手権」として親しまれている伝統の大会。五回目の出場となった本学は、これまで二〇〇五年と二〇一一年に準優勝しています。

決勝では、前半2、5分に続けてトライを奪うなど序盤から圧倒し、最後まで運動量を落とさずに相手の反撃を防ぎました。創部三十一年、これが主要な大会で初めて獲得したタイトルになりました。

同部では三年前に元副将の長江智晴さんがコーチに就任したほか、元日本代表

フッカーの七戸昌宏さんやトレーナーの松井健一さんらの好意の指導を得て、練習環境が改善されました。就任三十年目の岡本昌也監督（経営学科教授）は「皆さんの支えがあり、部員たちが練習に集中できたのが最大の勝因です」と感謝と喜びを述べました。

後藤杯卓球に 全国から1335人

第四十五回後藤杯卓球選手権大会《名古屋オープン》が一月十六、十七日、一宮市総合体育館で開かれまし

た。三十二道府県から一三三五人の子供たちが参加。開会式で愛知県卓球協会会長の後藤淳理事長が、ピンポン外交に尽力した元日本卓球協会会長、前学園理事長の故後藤鉦二先生の業績にふれ「明日の卓球界を盛り上げるのはあなたたち」と期待を込めてあいさつしました。

愛知工業大学附属中学校の中村光人選手が全力プレーすることを宣誓し、子供たちは学年別の各部（いづれもシングル）に分かれて二日間の熱戦を繰り広げました。

第六十六回全国地区対抗大学ラグビーフットボール大会（一月二〜六日・名古屋

ロボットの未来を拓く

ロボカップジャパンオープン 2016 愛知

八草キャンパスに英知集結

「ロボカップジャパンオープン 2016 愛知」の競技にはロボカップとロボカップジュニアを合わせて1000人以上が出場すると見込まれています。八草キャンパス全域が競技やイベントの会場になります。

サッカー競技の会場は鉾徳館。種目によって登場するロボットのタイプが異なり、「小型ロボット」「中型ロボット」各リーグ（2階アリーナ）では車輪型ロボットがボールを追って走り回ります。小型リーグには人型ロボットの競技もあります。

人型ロボットが活躍するのは1チーム3台の人型2足歩行ロボットが対戦する「ヒューマノイドリーグ」（1階北）。ロボカップの究極の目標に向け、少しずつ人の動きに近づいてきました。各チームが同じフランス製の小さな人型ロボットで対戦する「標準プラットフォームリーグ」（1階東）ではプログラムの工夫を競い、2号館2階自習室・ゼミ室で開かれる「シミュレーションリーグ」ではコンピューター上のスクリーンフィール



「ロボカップジャパンオープン 2016 愛知」へ、お出かけを

サッカー、レスキュー！... 1000人余競う

ドでサッカー対戦します。

2号館は、主に災害救助をテーマにしたレスキュー競技の会場になります。仮設の災害現場で救助活動のスピードと精度を競う「実機リーグ」（地下1階）と、バーチャルロボットを使って救助戦略を考える「シミュレーションリーグ」（2階プレゼンルーム）の2つのリーグがあります。

A I Tプラザの1階では、キッチンやリビングルームといった日常生活の場所で人間とともに暮らすロボットの可能性を探る@ホーム競技の「オープンプラットフォーム」「エデュケーション」「シミュレーション」各リーグが開かれます。

ロボカップジュニアでは、次世代の担い手と期待される子供たちが「サッカー」（10号館）、「レスキュー」「CoSpace = 仮想空間での対戦競技」（2号館）、「ダンス」（1号館大階段前）の4種目に分かれて競い合います。

このほか、一般が参加できるイベントとして、からくり人形公演会や初心者向けロボット体験教室、スタンプラリーなどが予定されています。



豊田市長賞を受けた小島五月さん（左から2人目）ら上位入賞の学生たち

豊田市民美術展
専門学校生が好成绩
専門学校情報工学科の学生四人が昨年十一月に開催された豊田市民美術展のグラフィックデザイン部門で豊田市長賞など上位入賞を果たすという好成績を収めました。
豊田市長賞にはコンピュータグラフィックスコース二年の小島五月さんの「棒の手」、豊田市議会議長賞にはDTP・Webデザインコース一年次の弘川素さんの「あなたはだれ？ わたしはだれ？」、審査員特別賞には同コース一年次の木戸亮太さんの「Where do you walk?」、優秀賞には同コース一年次の中根拓巳さんの「共に生

きる」が選ばれました。小島さんは猿投祭りの棒の手を版画風に表現、縦841ミ、横594ミの大きさです。小島さんは昨年春の同展では議長賞、昨年の火災予防運動のポスターも作成協力し豊田市消防長から感謝状を贈られるなど活躍しています。河合忍教授は「多くの作品が入賞し、みんなよく頑張ってくれました」と話しました。

システム管理部参事
山本久雄氏が死去
学園事務局システム管理部参事の山本久雄氏が一月一日死去しました。六十三歳でした。
通夜は一月三日、葬儀・告別式は四日、遺族や後藤淳理事長ら学園関係者多数が参列して営まれました。
告別式では近藤修司システム管理部部長が弔辞を読み上げました。後藤泰之学長も年頭挨拶の席上、山本氏の死去に触れ「本学学事システムを築き上げられた山本さんの死去は学園にとって大きな損失です。感謝申し上げます」と述べました。